

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270500329		
法人名	有限会社 幸久の家		
事業所名	グループホーム陽だまりの森 (湯と里館)		
所在地	大田市久利町久利691		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	平成21年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成21年10月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員、入居者同士がお互いの不安に耳を傾けることができる関係性が築けており、お互いの気遣いもできる関係性である。 「あなたの笑顔、あなたの元気で毎日、健康、楽しい我が家」をモットーに頑張っています。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

豊かな自然に囲まれた、温かでアットホームな雰囲気のある事業所であり、職員同士の仲も良く、互いに信頼しあって意見が言い合える関係にある。その為、業務改善についても活発に意見を出し合い、全職員で前向きに取り組むことが出来ている。利用者、家族からも信頼の厚い事業所である。地域の保育園や小学校との交流は恒例となっており、合同行事には利用者と一緒に出かけたり、行き来する機会が多く設けられている。さらに、老人会との交流も深まり、今年はボランティアが増えて、利用者を喜ばせている。自治会の協力も得られ、確実に地域に根を広げており、更なる活躍が期待出来る。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしく自分らしく」をキャッチフレーズに掲示、また、自己目標設定の中で意識するよう心がけている。	「あなたらしく自分らしく」をキャッチフレーズに、5つの介護理念を掲げている。ホーム内の掲示や利用者家族、町内全戸に配布している広報誌にも載せて、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	合同行事を行ったり、地域行事へ積極的に参加できるようにしている	保育園や小学校との合同行事や、今年度は老人会のボランティアも各種加わり、利用者を楽しませている。地区の行事にも利用者と一緒に参加している。講師を招いての予防教室(手洗い研修)には、地区住民も参加されて、喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	合同行事を行ったり、地域行事へ積極的に参加できるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族用緊急連絡網の作成など家族からの意見に応えられるよう努力している	利用者家族や地域の方にも参加頂いて定期的に開催し、活発な意見交換をしている。「午睡時間が長い」との意見があり、目安時間を決めたと、利用者同士でのふれあいが増えた。又、要望から家族用緊急連絡網を作り、訓練を重ねている。	決まったメンバー以外に、ゲストを招いての話し合いは、内容を深め、話題の広がりから、新たな発見が期待されます。又、交代で一般職員も参加されるとよいでしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が月一回来所され情報交換している。介護相談員は積極的に運営推進会議にも出席して下さる	市のグループホーム協議会や地域の連絡会、勉強会等に参加し、相談の機会を設けている。市から任命された介護相談員が毎月来所されている。	利用者の不穏な状態が長期化する事は、本人はもとより、他の入居者や家族、職員に与える不安やストレスが心配されます。家族と一緒に市や包括なども交えてケース検討し、助言を得る事をお勧めします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は施錠はしているのが実情ではあるが、日中は自由に出入りできる環境を作っている。	日中は鍵をかけることはない。身体拘束や虐待防止などの研修も熱心に参加している。必要な場合には、家族の承諾を得て、短期間ベッド柵やセンサーマットを使用する事があるが、現在は実例がない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護係、リスク係を中心に不適切なケアがなされていないか話し合いをする機会を設けている。勉強会も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが意見は頂いていない	職員を覚えて頂けるように、ホールには職員の写真と名前が貼り出されている。月末には家族に電話や手紙で状況報告をしている。広報誌や行事案内、写真の送付により、利用者の様子を知らせ、家族からの意見を引き出す努力をしている。	毎月の家族への出納簿のコピー送付や、担当職員や管理者が個別のコメントを書き添えたおたよりは、後日確認出来るように事業所でも保管される事をお薦めします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度管理者と職員で個人面接している。	全職員が半年ごとに、個人目標を決めて提出し、主任や管理者と面談を行っている。スタッフ間の関係が良好で気軽に相談出来る体制にある。職員に適した8つの係を決め、現場の職員が積極的に意見を出し合い業務の改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野とする係りを役割とするよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大田市グループホーム部会勉強会に参加している。また、他ホームへの実習を計画、実行している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田市グループホーム部会勉強会に参加している。また、他ホームへの実習を計画、実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分とは言えない		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分とは言えない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	半日利用、1泊2日など本人、家族の希望を聞きながら入居までの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、食器洗い、収納など「一緒に」を意識してできると思われる事はお願いし行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診結果等だけの報告ではなく何かの成功例や良いしぐさなど喜びの報告もするよう心がけている。写真や手紙を送ることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力はしているが頻度的に多い方ではない	遠方の家族が帰省された際、職員同伴で温泉に宿泊して喜ばれ、今度は家族の住む地に誘って頂いている。移動手段のない家族を送迎して、毎週宿泊して頂いているケースもある。地域の馴染みの美容院、一時帰宅や家族との外出支援など、利用者や家族の希望を叶える努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで隣同士など以前に比べ会話が増えてきている。年度目標にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も野菜を頂いたり、電話をしたりすることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度センター方式用紙により再アセスメントしている	センター方式のアセスメント用紙を使って、利用者本人の言葉で記すようにした。誰が見ても解り易く、職員間での情報共有が出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努力はしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、居室担当者を中心に当月の様子を振り返っている。また、3ヶ月に1回アセスメントを行い状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度センター方式用紙により再アセスメントし、担当者会議している	居室担当職員を中心に担当者会議を行い、全職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。3ヶ月に1回は本人や家族の意向、職員の気づきや最新情報を集め、現状にあったプランに見直している。又、支援内容が変わった時は、随時、担当者会議を開き、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に一度センター方式用紙により再アセスメントし、担当者会議している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校、老人会との合同行事を開催し関わりを持つようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている	協力医療機関の医師、看護師とも連携が十分とれ、信頼し気軽に相談出来る関係にある。利用者や家族が希望するかかりつけ医に決めており、元々のかかりつけ医に継続して診て貰っている方もある。又、整形や精神科などの専門医を受診している方もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅総合診療を受けており、当医院の看護師に相談することもある。また、隣設するディサービス看護師に協力してもらうこともある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っている	重度化や終末期に向けた方針は、入居時に話し合っている。家族や主治医、職員とよく話し合って方針を決め、協力医とは携帯電話で、いつでも連絡が取れる体制にある。近年は、毎年看取りのケースがあり、職員の希望もあつて、夜間緊急時のマニュアルも作成された。	看取りの指針を現在検討中であり、早期に整えられることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、救急法訓練を実施している。避難訓練、夜間想定避難訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡、支援体制において自治会長にも相談中である	同法人の通所事業所と合同の消火、避難訓練や救急法訓練のほか、単独で夜間想定訓練も行っている。職員専用、家族専用の連絡網があり通報訓練も重ねている。	水以外の備蓄に関しても検討して頂きたい。自治会との連絡、協力体制が早期に整えられることを期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている	利用者には丁寧に温かい声かけをしている。トイレに着替えを置いて周囲の目を気遣うなど、プライバシーへの配慮や個人情報管理に留意している。又、気づいた時は、職員間で注意しあったり、話し合いがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2つ以上の選択肢を設け、利用者が自己決定できるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をしておられる方とそうでない方に分かれる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、髪型を変えるなど楽しんでおられる利用者もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を元に利用者にメニューを決めてもらい一緒に調理している	調理専属の職員はなく、全職員が交代で調理している。食事について話し合い、昼食には全職員と一緒に作った汁物を食べるようになった。献立の立て方も見直し、利用者と一緒に決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている時とそうでない時がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	無理にトイレ誘導せず本人の表情を確認し声かけを行う配慮をしている。また、日中、夜間と布パンツ、パッドのみなど状況によって変えるケースもある	排泄関係の勉強の機会を多く設け、理解を深めている。職員が排泄パターンを把握していく事で、タイミングよくトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。布パンツで過ごされる方も多くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、マッサージなど利用者によってそれぞれの対応をしている。ヤクルトなどの飲食物も積極的に摂取してもらうよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく利用者に時間、回数を決定していただいている。介助がいる方はある程度配慮させていただいている	高齢化してきたことや、寒い時期でもあり、積極的に入浴を希望する方は少ないが、回数や時間は利用者の希望に沿うようにしている。	要介助者や家族にも、これまでの習慣や希望を聞いて、可能な範囲で叶えて頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の仮眠を少なくし、なるべく活動的に動いていただくよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、服薬ボードにて個数などチェックするようになっている。その方々の服薬表をまとめている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への買い物の希望があった際には一緒に歩いて行くなどその都度対応している	近隣への散歩や季節に応じた外出が計画され、四季を感じながらの外出を楽しんでいる。ホーム周辺の散歩や、オヤツを買いに近所の店に行かれる方もある。外食やドライブ、帰宅などの外出支援を行い、少人数で、ゆっくりと触れ合える外出を心掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方は自分でして頂いている。ホームでは所持金がいくらあるかは分からない。都度確認できない為、家族にもその旨、了解を頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分とは言えない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の灯りが白々しいことや、全てが見渡せる環境であり、居心地が良いとは言えないかも知れない。	退所者のお宅から寄贈された仏壇が和室に置かれ、家庭の雰囲気を感じさせる。職員と一緒に拝んだり、ご飯やお茶をお供えている。	以前から指摘されている浄化槽の臭いは、換気扇を取り付けて対処されており、臭いは軽減したが、扉を開放する季節には、心配が残る。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	照明の灯りが白々しいことや、全てが見渡せる環境であり、居心地が良いとは言えないかも知れない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳、タンスなどの持参によりその人らしい空間になっている部屋もある	使い慣れた家具や持ち物を持ってきて頂くように、お願いしている。家具の配置は自由で、写真や絵を飾られた部屋、ベッドを使用される方、畳を敷かれている方など各々の個性がみられる居室になっていた。冷蔵庫や電気ポット、テレビ等を持ち込まれている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている		